

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（自由プロジェクト研究）
2012年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属・職名	氏名		
	異文化コミュニケーション学部	細井尚子 印		
研究課題	ユーラシアにおける汎文化圏的な世界認知の研究—仮頭・仮面に着目して—			
研究組織	所属大学名等・職名	氏名		
	立教大学異文化コミュニケーション学部・教授	石川文也		
	沖縄県立芸術大学芸術文化学研究科・教授	板谷徹		
	早稲田大学演劇博物館館長	竹本幹夫		
	東京外国語大学総合国際学研究院・教授	粟屋利江		
	追手門学院大学社会学部・教授	橋本裕之		
	岡山大学教育学研究科・教授	山本宏子		
国立民族学博物館人間文化研究機構地域研究推進センター・研究員	宮本万里			
研究期間	2011年度	～ 2012年度	年度	
研究経費	2011年度	2012年度	総計	
	3000千円	3000千円	6000千円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

日本の伎楽面のように頭部を覆う仮頭は、仮面に焦点をあてた仮面研究の中に埋没してきたが、アジアの無形文化における仮頭研究により、仮頭は仮面の仮装性に対して存在そのものが変わる「挿げ替える頭」であり、その出現の時空は宗教性を脱却できないという属性をもつことが分かった。ヨーロッパにも仮頭によって視覚化される存在はあり、アジアの仮頭同様、行列・パレードによって祭などの場に出現する。ユーラシアの仮頭は異なる宗教を纏いつつ人々の日常生活圏の時空の外から来る異形の存在であり、人間の死生観・世界観に基づく世界認知のあり方の共通性を暗示する。仮頭と空間移動に着目し、ユーラシアで共有されていたと思われる汎文化圏的世界認知の実像について解明する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

{ 仮頭 } { 仮面 } { 空間移動 }

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

2012 年度は S F R 最終年度としての総括及び科研申請の助走と位置づけ、以下の 3 項目を実施した：

- ①昨年度の調査・資料収集の補強・拡大
- ②国際学会での成果報告及び研究交流
- ③成果報告書の刊行

- ①昨年度の調査・資料収集の補強・拡大

・仮頭・仮面の二様各々が表すものについて、各自の分担テーマ・対象について調査・資料集を行い、分析・考察を研究会で報告、意見交換・検討を経て、研究報告をまとめた。

<研究会>

1) 4月21日(土) 14:00~19:00 立教大学 12号館第1会議室

- ・11年度総括を踏まえた12年度研究活動の方向性
- ・12年度研究計画
- ・12年度研究活動(個人・共同)

2) 10月8日(土) 18:00~21:00 立教大学マキムホール6階会議室

- ・報告+検討
中国湖南臨武儺文化国際学術検討会(宮本・山本) *発表論文
与那国ミルク調査(細井)
- ・研究成果報告書関連
- ・最終研究会関連
- ・科研申請関連

3) 1月26日(土) 17:30~20:00・27日(日) 9:30~12:00 民族歴史博物館現代インド地域研究拠点室

- ・報告+検討
スイス追加調査(石川)
中国湖南臨武儺文化国際学術検討会(宮本・細井)
石見神楽(山本)
高千穂神楽(橋本)
与那国追加調査(板谷)
- ・最終報告書関連
- ・今後の計画

<調査・資料収集>

1) 海外(成果報告書に調査報告を収録)

・8月14日~20日:中国・湖南省臨武県

中国湖南臨武儺文化国際学術検討会、油湾村儺儀・儺戯(細井・宮本・山本)

シンポジウムでは、中国、韓国、日本、オーストリアの研究者32名が2日に分けて発表を行った。

中国儺戯学会が現地政府、関係者の協力を得て、実際には1年間の特定日時に行って完結させる現地の儺儀・儺戯の式次第を、1日に凝縮して実施した。

・12月30日~1月4日:スイス・ウルネッシュュ、アッペンツェル

クロイセ追加調査、関連資料収集(石川)(成果報告書に調査報告を収録)

2) 国内(成果報告書に調査報告を収録)

・9月4日~7日 沖縄県与那国 ミルク調査・関連資料収集(板谷・細井)

・11月17・18日 島根県松江市、浜田市 石見神楽関連資料収集(山本)

・11月22日~25日 沖縄県与那国 ウブンダ、ミルク関連資料収集(板谷)

研究【経過・成果】の概要 つづき

- ・12月7日～10日 宮崎県臼杵郡高千穂町 高千穂神楽資料収集(橋本)
- ・2月15・16日 島根県松江市 石見神楽関連資料収集(山本)

②国際学会での成果報告及び研究交流

共同調査・研究活動として、8月に行われた中国湖南臨武儺文化国際学術検討会において研究発表を行い、研究者間交流を図るほか、現地の儺戯(仮頭・仮面を用いる宗教芸能)の映像資料作成などを行った。

<発表者・発表テーマ>

細井尚子「巡回之神——伊勢大神楽」(「巡回する神—伊勢大神楽」)

山本宏子「两个神灵世界交错的备中神乐」(二つの神世界が交差する備中神楽)

宮本万里「現代不丹の聖俗界线——查姆舞的参与者及其变迁」(現代ブータンにおける聖俗の境界)

*尚、発表論文は中国儺戯学会を中心とする本シンポジウム主催団体により、中国で刊行する論文集に収録される予定。

<現地実見対象>

演劇系：臨武祁劇・臨武小調・湖南崑曲

儺戯：油湾村儺儀、儺戯

③成果報告書の刊行

『ユーラシアにおける仮頭文化の研究』(144頁)

2011・12年度立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)プロジェクト研究(自由プロジェクト研究)「ユーラシアにおける汎文化圏的な世界認知の研究—仮頭・仮面に着目して」(代表細井尚子)DTP出版 2013年3月25日刊行

2011・12年度の研究成果を基に、科研基盤B(海外学術)に申請

課題名「ユーラシアにおける世界認知の研究—仮頭・仮面に着目して—」

概要：無形文化として継承されているユーラシアの様々な祝祭の中で用いられる仮頭・仮面に着目し、仮頭・仮面によって表象される、ユーラシアに共通する世界認知の特徴を明らかにするのを目的とする。また、以下に示す方法により目的を達成するとともに、これにより西洋・東洋という文化圏的な境界を越えた文化研究方法のモデルを提示することを目指す。

- ① 仮頭・仮面調査、当該無形文化の共同体における機能などの実態調査
- ② 当該無形文化圏の人々が仮頭・仮面に託し、表象している精神的枠組みの分析
- ③ 対象地域の属するアジア・ヨーロッパの仮面研究の成果を踏まえた②の分析・検討
- ④ 「世界宗教」以前の多様なレベルの信仰・思想・神話にみる精神的枠組みと②③との検証
→不採択となった。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

竹本幹夫「伊達家旧蔵能楽資料の形成について」『能と狂言』第11号 能楽学会(印刷中)

竹本幹夫「能・パトロン・観客」Barbara Geilhorn, Eike Grossmann, Miura Hiroko, Peter Eckersall (eds.) Enacting Culture: Japanese Theater in Historical and Modern Contexts München: Iudicium pp. 123-134

橋本裕之「信仰物理学再訪」『東北文学の世界』第20号 盛岡大学文学部日本文学会 pp. 1-25

橋本裕之「津浪と芸能—東日本大震災以降の現状と課題—」『演劇学論集 日本演劇学会紀要』54 日本演劇学会 pp. 44-57

橋本裕之「民俗芸能と地域社会——岩手県沿岸部における秘密」『月刊みんぱく』第36巻第9号 国立民族学博物館 pp. 4-5

② 図書

宮本万里「チャンからみたブータンの村落社会と国家」(単著) 松本淳、横山智、荒木一視 (編) 『モンスーンアジアのフードと風土』 明石書店 pp. 204-220

宮本万里「現代ブータンの国立公園と環境政策：焼畑規制をめぐる文化の政治」(単著) 木村武史 (編) 『(仮) サステイナビリティ論集』 日本地域社会研究所出版局 (印刷中)

③ 中国湖南臨武儺文化国際学術検討会 (8月16日・18日 中国・湖南省臨武県)

細井尚子「巡回之神——伊勢大神楽」

山本宏子「两个神灵世界交错的备中神楽」

宮本万里「現代不丹の聖俗境界——查姆舞の参与者及其变迁」

④ 成果報告書

『ユーラシアにおける仮面文化の研究』

2011・12年度立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)プロジェクト研究(自由プロジェクト研究)「ユーラシアにおける汎文化圏的な世界認知の研究—仮面・仮面に着目して」(代表細井尚子) DTP出版 2013年3月25日刊行

<研究報告>

細井尚子『『仮面』考—試論』 pp. 3-14

板谷 徹「与那国のミルクと芸能」 pp. 15-22

山本宏子「備中神楽における荒神神楽と神代神楽」 pp. 23-30

橋本裕之「獅子頭空洞説、あるいは器としての獅子頭」 pp. 31-40

竹本幹夫『『申楽談儀』<面のこと>をめぐる』 pp. 41-50

宮本万里「現代ブータンの祭り」と儀礼—顔のない踊り『テル・チャム』 pp. 51-60

石川文也『『仮面・仮面の祭』研究の認識論的枠組みに関する問題提起(序説) 一事例調査報告：シルヴェスタークロイゼの祭り』 pp. 61-81

<調査報告>

山本宏子「石見神楽における楽器」 pp. 83-90

橋本裕之「高千穂神楽における仮面の位相」 pp. 91-94

板谷 徹「与那国調査報告」 pp. 95-96

細井尚子「中国湖南臨武儺文化国際シンポジウム」 pp. 97-108

石川文也「Projet : « Masques festifs eurasiatiques » - Note prise sur le terrain (フィールド・ノート) -」 pp. 109-140